

2026年3月期 上期(FY2025 1H) 経営現況報告

2025年11月5日

千代田化工建設株式会社
(証券コード：6366)



© Chiyoda Corporation 2025, All Rights Reserved.

説明者



代表取締役 社長
太田 光治

AGENDA :

1. 「経営計画2025」上期の状況
2. 遂行中案件の状況
3. 受注の状況
4. 事業共創の拡充 進捗



社会の“かなえたい”を共創する
Enriching Society through Engineering Value

社長の太田です。
続きまして、「経営現況報告」について資料に沿ってご説明します。

最初に、「経営計画2025」の状況についてご説明します

1.「経営計画2025」上期の状況

中期経営計画「経営計画2025」 2025年度上期の状況

定量目標、重点取組ともに概ね順調な滑り出し

定量目標		純利益150億円（3年平均）に向け、受注高、完工高とも計画を上回る推移
重点取組	海外既存大型プロジェクトの着実な遂行	・ゴールデンパスLNG：第2/第3系列契約調印の最終段階 ・カタル NFE：設計・調達は終盤に入り、建設工事が進行中 
	海外プロジェクト取り組み改革（受注方針）	中東においてリスク抑制を講じた中規模案件を受注
	国内プロジェクトの収益拡大	西部ガス(株)向けひびきLNG基地をはじめとした複数案件を受注 
	事業共創の拡充	植物バイオファウンドリ事業の立ち上げや細胞/再生医療分野への進出で事業開発に向けた基盤構築が進む 
	分厚い中核人財層の形成	成長加速をより意識した国内外・組織横断ローテーションを推進

最初に、「経営計画2025」の状況についてご説明します。
3ページをご覧ください。

本年5月にスタートした中期経営計画「経営計画2025」の進捗は、
定量目標、各重点取組とも概ね順調な滑り出しとなりました。

定量目標においては、遂行中案件の着実な進捗と
国内外での新規プロジェクトの受注が貢献し、
2025年度上期の時点では、目標としている
3年平均での純利益150億円の達成に向け、
受注高、完工高とも計画を上回って進捗しています。

5つの重点取組においても、スライドに記載のとおり、
概ね計画に沿った取り組みが開始されています。このうち
「海外既存大型プロジェクトの着実な遂行」、
「国内プロジェクトの収益拡大」、「事業共創の拡充」
については、具体的な進捗を説明させていただきます。

2. 遂行中案件の状況

まず、遂行中案件の状況についてご説明します。
5ページをご覧ください。

遂行中案件の状況 ゴールデンパスLNG

第2 / 第3系列契約改定は、6月の基本合意から契約調印の最終段階へ
調印後、契約内容を踏まえて速やかに採算の見直しを実施予定

Golden Pass LNG Export Project	これまでの経緯 と 今後の見通し
 Courtesy of Golden Pass LNG ● 顧客名 Golden Pass LNG Terminal, LLC < QatarEnergy 70%, ExxonMobil 30%のJV > ● プロジェクト総額 / 当社契約額 (受注時) 約1兆円 / 約3,000億円 ● 建設地 Sabine Pass, Texas, USA ● スコープ 液化天然ガス (LNG) 年産520万トン×3Trainの LNGプラントおよび付帯設備のEPC業務	2024年 5月 • Zachry社(旧JVパートナー)が米国連邦破産法第11章 (Chapter11)を申請。 • 2023年度決算確定のため、プロジェクト遂行に必要な費用を最大限考慮し、▲370億円の費用を計上。
	2024年 11月 • 新JV体制下での第1系列の契約改定完了。採算見直しにより、第3四半期で約30億円の利益計上。 • 残る第2 / 第3系列の契約改定交渉を継続。
	2025 年度 • 2025年6月、第2 / 第3系列の契約改定につき、顧客と基本合意。 • 上記契約調印の最終段階。 • 調印後、契約内容を踏まえて速やかに採算の見直しを実施予定。

重点取組である「海外既存大型プロジェクトの着実な遂行」
の中で掲げている案件の一つである、ゴールデンパスLNGプロジェクトの状況です。

昨年5月のジョイントベンチャーパートナー離脱から、新体制での遂行を開始しています。
昨年11月の第1系列の契約改定に続き、本年6月には第2、第3系列についても契約改定の基本合意がなされ、現在、契約調印に向けた最終段階に入っています。

調印次第、これまでご説明の通り、契約内容を踏まえて速やかに採算の見直しを実施する予定です。

遂行中案件の状況 国内プロジェクト

複数の国内プロジェクト受注で収益拡大へ

ひびきLNG基地の受注・遂行



ひびきLNG基地の完成予想図（出典：西部ガス株式会社）

- ✓ 西部ガス㈱から ひびきLNG基地の能力増強に関するEPC業務を受注（2025年3月）。
- ✓ 新たにLNGタンク1基を増設、能力増強とし、カーボンニュートラルに向けた取り組みの一環となる。
- ✓ 国内プロジェクトの収益拡大へ貢献。

太陽石油(株)向け 沖縄事業所SAF^{*1}製造設備 FEED^{*2}業務を受注



建設予定地 太陽石油沖縄事業所（提供：太陽石油）

- ✓ 太陽石油(株)が、Ethanol To Jet（ETJ）技術^{*3}を活用し、年間20万キロリットルのSAFおよびRD（リニューアブルディーゼル）の供給開始を目指すプロジェクト。
- ✓ 当社の石油プラント建設等を中心とした技術力及び経験を活かし、SAF製造設備の確実な実装と航空燃料の脱炭素化に取り組む。

^{*1}：持続可能な航空燃料（Sustainable Aviation Fuel）

^{*2}：Front End Engineering Designの略。プラントの基本計画、基本設計、機器の仕様を決めるまでのエンジニアリング業務。

^{*3}：エタノールを原料にSAFを製造するプロセス。SAFの国際規格（ASTM規格D7566 Annex 5）として認証されている。

続いて、国内プロジェクトについてご説明します。
6ページをご覧ください。

国内では、複数案件の受注で収益拡大を目指しています。

資料左側、昨年度末に西部ガスから福岡県北九州市の「ひびきLNG基地」の能力増強に関するEPC業務を受注し、遂行中です。当社は技術力とプロジェクト遂行力を生かして、カーボンニュートラルに向けた取り組みに貢献していきます。

資料右側は太陽石油向けSAF製造設備のFEED業務の受注です。太陽石油が年間20万キロリットルのSAFおよびリニューアブルディーゼルの提供開始を目指すプロジェクトとなります。

重点取組の一つとして、国内プロジェクトにおいてはグループ会社も含め、今後も複数案件の受注を目指し、収益拡大につなげていきます。

主要遂行中案件の状況

◆主要遂行中案件一覧					◆遂行スケジュール※			
受注残高	案件	国・地域	受注時期	プロジェクトの状況	FY2025	FY2026	FY2027	
1,000億円以上	NFE LNG	カタール	FY2020/Q4	・一時的な地政学リスクの高まりはあったものの、 ・工事は概ね順調に進捗				
500億円以上	ゴールデンパス LNG	米国	FY2018/Q4	・P5参照	契約調印に向けて最終段階			
	石油・石油化学 関係EPC	中東	FY2025/Q1	・プロジェクト開始。設計・調達業務に着手	詳細非開示			
100億円以上	先端素材 生産設備	日本	FY2023/Q3	・設計、調達は最終盤 ・建設も計画に沿って進捗				
	LNG 受入設備	日本	FY2024/Q4	・設計作業を開始				
	硫化リチウム 大型製造装置	日本	FY2024/Q4	・設計は6割程度の進捗				
	バイオ医薬品 原薬製造設備	日本	FY2023/Q4	・設計、調達は最終盤				

7 ページは主要遂行中案件の状況となります。

現在遂行中である主要案件の状況及びスケジュールを掲載しています。
各案件とも、着実に遂行しています。

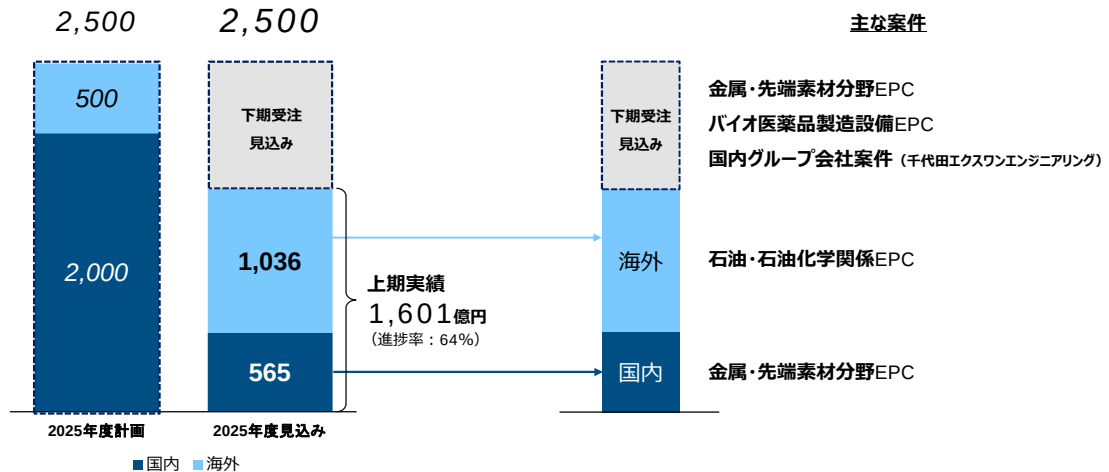
3. 受注の状況

続いて受注の状況です。
9ページをご覧ください。

受注の状況

本年上期において受注目標額を上回るペースで進捗
下期は国内で金属・先端素材分野、ライフサイエンス分野のEPC案件の受注を見込む

単位：億円



上期の受注は、左から2つめのグラフのとおり1,601億円となり、2025年度の受注目標額である2,500億円を上回るペースで進捗しています。

同じグラフの紺色で示している国内では金属・先端素材分野、水色で示している海外では、石油・石油化学関係のEPCを主として、国内外とも受注が順調に進みました。

下期は右端のグラフの灰色で示しているとおり、金属・先端素材分野やバイオ医薬品関連、および国内グループ会社である千代田エクスワンエンジニアリングでのEPC案件受注に期待しており、通期予想の達成を目指します。

主な受注ターゲット

「経営計画2025」の受注計画9,500億円達成に向けた主なターゲット※



※FY2027までの受注獲得に向け千代田化工建設グループで取り組んでいる主な案件
※2025年度上期までに受注計上した案件は集計対象から除く

CHIYODA
CORPORATION

© Chiyoda Corporation 2025. All Rights Reserved.

10

続いて、10ページをご覧ください。

2027年度までの3カ年の受注計画9,500億円達成に向けた
主なターゲット地域と案件です。

日本国内の「エネルギーと素材領域」では、SAF製造設備やCCS、
水素製造プラント、水電解装置といった脱炭素案件や、
蓄電設備、先端素材製造設備などをターゲットとしています。

「ライフサイエンス領域」では、バイオ医薬品の製造設備といった案件を
ターゲットとしています。

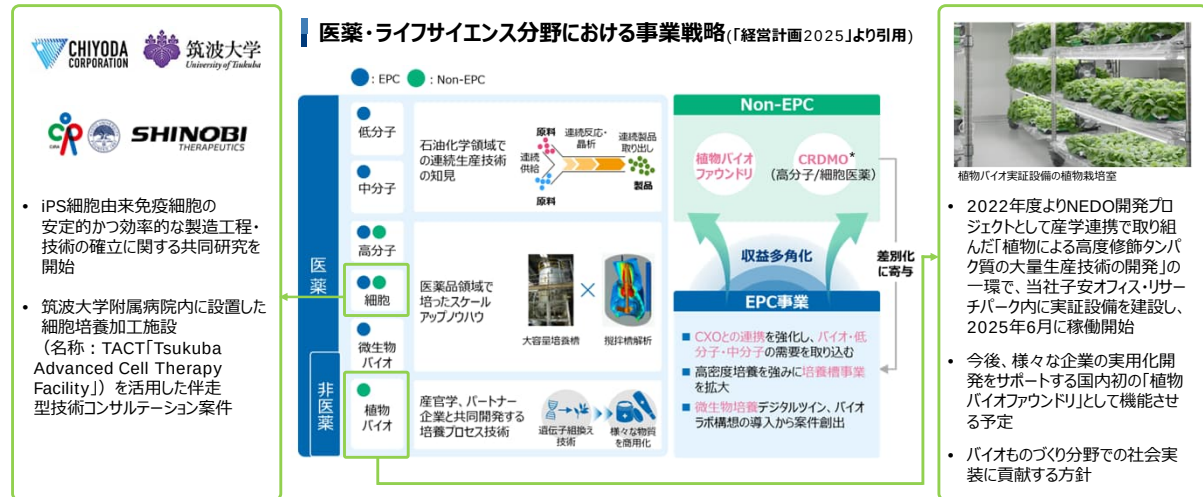
海外では、「エネルギーと素材領域」が中心となりますが、
既設プラントの増設や改造案件、金属資源関係の案件などを
ターゲットとしています。

4. 事業共創の拡充 進捗

続いて事業共創の拡充について現在の進捗をご報告します。
12ページをご覧ください。

事業共創の拡充 進捗

ライフサイエンス分野において、細胞医療事業への進出、植物バイオ関連の共創など、事業開発に向けた基盤構築が進む



* CRDMO: Contract Research, Development and Manufacturing Organization(受託研究開発製造)

CHIYODA CORPORATION

12

© Chiyoda Corporation 2025. All Rights Reserved.

重点取組の一つである「事業共創の拡充」では、アールステージから顧客の事業開発に伴走・支援をすることにより、共同で事業を推進するパートナーへと提供価値を最大化することを目指し、取り組みが進められています。

このうち、ライフサイエンス分野においては、細胞医療事業への進出、植物バイオ関連の共創など、事業開発に向けた基盤構築が進んでいます。

資料左側に示します、細胞医療事業では、つくば大学、京都大学、シノビ・セラピューティクスとの協業により、iPS細胞由来である免疫細胞の、安定的かつ効率的な製造工程・技術確立に関する共同研究が開始されました。

つくば大学附属病院内に設立した、細胞培養加工施設であるTACT（タクト）で検証を進める、伴走型技術コンサルティング案件です。

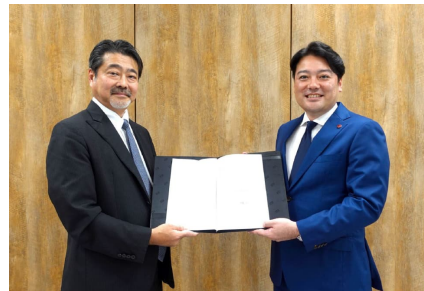
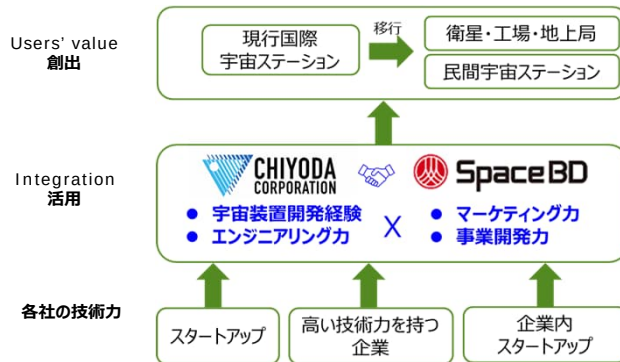
資料右側、植物バイオファウンドリは、2022年度からNEDOの開発プロジェクトとして、産学連携で「植物による高度修飾タンパク質の大量生産技術の開発」に取り組んでおり、本年6月には実証設備を稼働させました。

この取り組みは、バイオものづくり分野での社会実装に貢献するものです。

事業共創の拡充 進捗

宇宙事業の機会拡大へ向けた Space BD(株)との宇宙ビジネスにおける事業提携開始

- ✓ 宇宙商業利用分野での日本の国際競争力向上と宇宙環境利用の普及拡大を目指した協業
- ✓ 宇宙インフラの開発、商業宇宙ビジネスの推進、サステナビリティへの貢献を強化
- ✓ 両社で新たな事業機会を創出し、グローバルな宇宙市場の成長に向けて、積極的な関与を目指す



当社 執行役員 伊藤 利之（左）、Space BD 代表取締役社長 永崎 将利（右）



© Chiyoda Corporation 2025. All Rights Reserved.

13

最後のスライドとなります。
13ページです。

当社は1990年代から宇宙事業を展開していますが、事業機会拡大に向けた取り組みも進めています。

本年5月に発表した、Space BD社との事業提携では、宇宙商業利用分野での日本の国際競争力向上と、宇宙環境利用の普及拡大を目指しています。

この協業により、宇宙インフラの開発や、商業宇宙ビジネスの推進、サステナビリティへの貢献へ強化を進めていきます。

今後も千代田化工建設は、国内外での多様なプロジェクト・事業を通じて、変化を恐れず成長を続けていきます。

以上で、説明を終わらせていただきます。

この資料には、事業戦略・本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみに依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。

【お問い合わせ先】

千代田化工建設株式会社

総務部 IR・広報・サステナビリティ推進セクション

E-Mail : ir@chiyodacorp.com



© Chiyoda Corporation 2025, All Rights Reserved.

